

# あいさつ

新たな年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。また、日頃より市政の推進と発展に対し、多大なるご支援とご協力を賜りました市民の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年は多くの試練に見舞われた1年となりました。年明け早々に能登半島地震が発生し、4月の豊後水道を震源とする地震では、本市においても震度5強を観測しました。さらに8月の日向灘を震源とする地震では、令和元年に防災強化を目的に制度が運用されて以来初めて「南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。このように昨今、自然災害が多発する中で、本市は防災・減災対策のさらなる強化と充実を図るべく、一層の努力を重ねてまいります。

また本年は、平成17年8月1日に1市3町が合併してから、ちょうど20年という節目を迎えます。この20年の歳月は、市民の皆さまと共に歩んできた道のりそのものであり、その間にはさまざまなことがありました。

とりわけ平成30年7月豪雨災害は、本市にとって忘れられない、そして決して忘れてはならないものとなりましたが、市民の皆さまをはじめとする関係者の並々ならぬご尽力により、危機的な状況から脱することができました。未だ復興は道半ばではありますが、創造的復興に向けて、引き続き着実に進めていきたいと考えております。

加えて、少子高齢化や人口減少といった社会課題に対しても、これまでの取り組みを

見直しつつ、新たな20年に向けて、地域の未来を築き、豊かなまちづくりに挑戦してまいりますので、市民の皆さまにおかれましては、ぜひともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまにとりまして、この新たな年が最良の1年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

宇和島市長

岡原 文彰

# 新年のご

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、4月に豊後水道を震源とする地震、8月には日向灘を震源とする地震が発生し、初めて「南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。日頃から地震に対する準備はしていましたが、実際に地震が起きると、思うような行動が取れず、災害への向き合い方を考える大きな転機になったように思います。

平成30年7月豪雨災害からの復興も6年を経過して、新しい園地でのみかんの収穫のニュースなど確かな歩みを続けております。またコロナが5類に移行してから2年が経ち、南予圏域における観光入込客数はコロナ前の水準に戻りつつあります。今後も南予圏域が一体となり、地域の特産品や文化をさらに多くの人に知ってもらうだけでなく、さまざまな機会にキラッと輝く宇和島市の魅力を発信してまいります。

市議会では、令和6年6月定例会で議員定数を24名から20名とする条例が可決となり、令和7年9月の次期任期から適用となります。議員定数は削減となりますが、さらなる少子高齢化、物価高騰による経済の停滞など、地域の課題は増大することが見込まれます。こうした時こそ、さまざまな意見を戦わせ希望を作りながら、市議会として直面する諸課題に取り組んでまいります。

少子高齢化の波や人口減の現実はありません。

ですが、だからこそ、ひとりを大切に、子どもたちが1人残らず幸せを感じられる、また高齢者も「幸福者」と思える宇和島市を目指したいと思います。

今後とも透明で公正、そして効率的な議会運営を目指し、市民の皆さまの声を代弁するとともに、未来につながる宇和島市実現に努めてまいりますので、議会活動に対し、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、2025年が皆さまにとりまして、幸多き年でありますよう祈念申し上げます。

宇和島市議会議員

松本 孔